

今週のみことば

「喜びの音信～わたしは主にお目にかかりました～」

(エレミヤ書 31 章 1 節～6 節)

「主は遠くから私に現れた。『永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた。』」(31:3)

(ヨハネの福音書 20 章 1 節～18 節)

「マグダラのマリヤは行って、弟子たちに『私は主を見ました』と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた。」(20:18)

今日のメッセージ要旨

◎私たちクリスチャンは必ず日曜日を主日として礼拝を守っています。何故それ程までに礼拝が大切なのでしょうか？。

◎エレミヤ書31章の主題は「全イスラエルの回復」で5分解されます。①1～6節、北イスラエルの回復、②7～14節、回復の喜び、③15～22節、ラケルの悲しみの終わり、④23～26節、ユダの回復、⑤27～40節、両者の回復、です。

◎ある年の漢字一字に「変」が選ばれたことがあります。その「変」という漢字には、「変革」(コリント②5:17)を求めること、「変わらないもの」を求めることの両面があります。「人は変わり、世は移れど変わらぬ御国を望みて進め」(福音賛美歌)、「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです(変わることはない)。」「(ヘブル13:8)。いつも時代が変わろうと変わらない御方を求め、その福音を求め、語り続けることの大切さを覚えさせられます。

「主よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられぬものを変える勇気と、その両者を見分ける叡智を我に与えたまえ。」(ニーバー)。確かに変えることの必要な時には思い切って変えていく勇気も必要なのです。

預言者エレミヤは、神様と民との関係を明白にして後、神様の恵みは困難の中に与えられること(2、出エジプト33:12～16)、更に神様の存在が遠く感じられる場合にも、私たちに「永遠の愛をもって愛している。わたしは誠実を尽くし続けた」(3)と語られるのです。また再建の約束が与えられています。更に神様を求めて帰るものの約束です。神様は「悲しみを喜びに変え、憂いを慰め、楽しませ、恵みに満ちたらせ」て下さるのです。

◎ヨハネの福音書20章は「復活」の出来事の記事です。並行記事はマタイ28:1-8、マルコ16:1-8、ルカ24:1-10です。

◎イエス・キリスト様の復活は「週の初めの日」に起こったのです。マグダラのマリヤは空虚な墓を見て、ペテロとイエス様の愛された弟子の所に告げたのです。二人の弟子は行ってその空虚な墓を確認したまま家に帰りましたが、マグダラのマリヤは墓の側で泣いていたのです。イエス様を「どこに置いたのか捜していた」マリヤに、イエス様は「後方から」すべてを知った上で「マリヤ」と個人的に名前を呼ばれたのです。マリヤの悲しみは「墓の中」(死の支配であり、絶望以外何もない)にイエス様を見いだそうとしたことです。しかし、イエス様は後方から(180度違った立場から)語りかけられたのです。そこには永遠のいのちがあり、愛と希望が待っていたのです。マリヤは復活されたイエス様に「ラボニ(先生)」と呼びかけましたが、弟子たちには「私は主にお目にかかりました」とイエス様を「主」と告白したのです。マリヤはイエス様を世話するものから、主を証しする者へと変えられたのです。私たちも主イエス様に出会い、救いに与った恵みを知人・友人に証しする者でありたい。